

令和7年度 社会文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和8年4月 17 日

富士見町議会

議長 小倉 裕子 殿

社会文教常任委員会

委員長 西 明子

社会文教常任委員会は令和8年3月 19 日、下伊那郡阿智村の「満蒙開拓平和記念館」を訪問し、展示解説と学習講話を受けました。下記の通り報告します。

記

1. 目 的

- ① 富士見分村にかかわる資料展示のある満蒙開拓平和記念館の展示から、富士見町としてできる今後の平和教育のあり方を参考とする。
- ② 富士見町も自治体パートナーとなっており、資料提供や情報共有等、連携の今後を考える機会とする。

2. 視察場所 下伊那郡阿智村の「満蒙開拓平和記念館」

3. 期 日 令和8年3月 19 日(木)

4. 派遣議員 西 明子、山口 肇、牛山 吉彦、川合 弘人、高見 春香

5. 視察報告

委員 1 名が視察先について報告書を作成しました。2 ページ目以降に報告書を添付いたします。

令和7年度 社会文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和8年4月 17 日

社会文教常任委員 川合弘人

①記念館の概要

満蒙開拓平和記念館は、中国残留孤児への支援を行っていた飯田日中友好協会が、満蒙開拓の歴史を次世代に語り継いでいこうと、歴史の継承に事業をシフトする中で、同協会が母体となり、8年間掛けて建設。本館は2013年4月に竣工、セミナー棟は2019年10月に竣工しました。満蒙開拓の歴史を専門に扱う全国唯一の施設であり、資料、映像、体験者の証言等を通じて、その実相と教訓を広く伝えるとともに、平和の尊さを次世代へ継承するための重要な拠点となっています。現在も年間2万人の来館者が訪れています。

2016年 11 月には、長野、愛知両県に私的旅行で訪れていた天皇・皇后両陛下が同記念館を訪問され、国策によって旧満州などへ渡った引き揚げ者と懇談されました。

②展示内容

戦前から戦後に至る満蒙開拓の歴史をコーナーごとにテーマを設けて紹介し、時系列に見て、学ぶことができます。

展示は、「序章 時代を知るタイムトンネル」から始まり、「大陸へ 映像で見る満州」「新天地満州 希望の大地」「敗戦と逃避行 絶望の彷徨」へと進みます。

序章の中では、特に富士見分村を取り上げ、説明されていました。村民総会を開いて村を挙げて満蒙開拓を実行した様子が示されています。

③満蒙開拓とは

主に農村の貧困対策、食料増産、国策としての大陸経営を目的として行われたもので、農村救済策としての移民政策です。北海道から沖縄まで、全国から開拓団を募り、旧満州に入植しています。

1931年の関東軍が起こした満州事変後、1932年から大戦中にかけて、日本政府は、国内で貧困にあえぐ農民の救済措置として、約27万人の農業移民を旧満州に送り込みました。現地では農村労働だけでなく満州国の維持や警備にも従事させられました。1945年終戦直前のソ連軍の侵攻に際しては、開拓団を守るはずであった関東軍が住民を置き去りにして、密かに撤退したということです。

1945年、終戦とともにソ連軍が満州に侵攻。多くの開拓団が逃避行を余儀なくされました。飢えや寒さで命を落とす、現地での集団自決、残留孤児・残留婦人の発生など多数の犠牲者が出ました。その中で、約8万人が命を落としたとされています。

④富士見町の歴史でもある満蒙開拓

長野県は全国最多の約3万3000人を送り出し、その多くが阿智村など県南部出身者でした。ただ、地方自治体別の数字では、富士見村は県内最多の入植者を送り込みました。諏訪地方6市町村別の数字でも、合併後の富士見町エリアにおける開拓団送出数は約1400人で、断トツの数字となっています。

⑤満蒙開拓という歴史が語りかけてくれるもの

館内の展示解説を終えた後、セミナー棟に移り、三沢亜紀事務局長からプロジェクターを使った説明を受けました。タイトルは「満蒙開拓という歴史が語りかけてくれるもの」です。

長野県は全国で最多の開拓団を送り出したにも関わらず、あまり語り継がれず、知らない人が多いと言います。それは、満蒙開拓という歴史は「向き合いにくい歴史」でもあるからだと言います。送り出した側、送り出された側の双方に深い傷が残っている。それを克服するには、加害者としての歴史に向き合うことが大切だと語りました。

開拓団は、自分の家族の幸せのために、村を挙げて取り組んだ事業でもあります。それなのに、語ることをためらう歴史でもあるということ。そのことに向き合うためには、何が間違っていたかを検証する必要があると語りました。日本が戦争に向かう中で行われた開拓移民の政策。三沢事務局長は「みんなで考えてみようとする姿勢が大事だ」と締めくくりました。

⑥まとめ

記念館の展示を通じて、歴史の持つ重みと、それに真摯に向き合う責任について、改めて深く認識させられました。

館内の展示では、開拓の経緯、現地での生活、終戦時の混乱、引き揚げの過程などが、貴重な資料と証言により示されており、多くの犠牲の上にある歴史の現実と、平和の尊さについて、あらためて考える機会となりました。

今回の視察を通じ、満蒙開拓の歴史は決して遠い過去の出来事ではなく、富士見町にとって、大いに関係のある「地域の歴史」であることを再認識しました。

また、体験者の高齢化が進む中、証言や資料の記録・保存を進め、次世代へ確実に継承していくことの重要性を強く認識しました。

今後は、富士見町における満蒙開拓の歴史の整理・記録の在り方、さらには学校教育や生涯学習の中での活用を含めた具体的な継承方策について、議会としても引き続き調査・検討を進めていきたいと実感しました。その成果を町政の発展に資するよう努めていきたいと思えます。



満蒙開拓平和記念館の正面入り口



展示は「序章 時代を知るタイムトンネル」から始まる



開拓民が入植した場所を示した満州の地図 「希望の大地」だった



事務局長の三沢亜紀さんによるプレゼンテーション

長野の人なのにどうして知らないのですか？

「満蒙開拓」という歴史
= 向き合いにくい歴史

- ① 語れなかった「満州」
- ② 送り出された側・送り出した側
- ③ 加害の歴史に向き合う

4